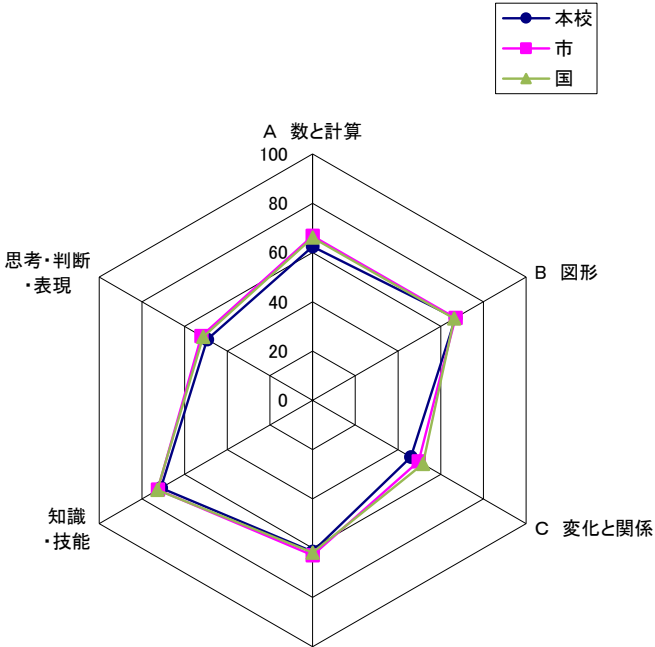


宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	62.4	66.7	66.0
	B 図形	66.9	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	46.0	49.6	51.7
	D データの活用	61.4	62.9	61.8
観点	知識・技能	71.1	72.6	72.8
	思考・判断・表現	49.4	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は全国と比べて少し下回っている。 ○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを記述する設問では、正答率が全国平均より3.1ポイント上回った。 ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表す設問では、正答率が全国平均より5.9ポイント下回った。 ●除数が1／10になったときの除数と商の大きさの関係について考える設問では、正答率が全国平均6.2ポイント下回った。	・数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題場面の数量の関係を捉えるのが難しい。文章題の「少ない」という言葉から誤って減法と考えた児童が多く見られたことから、普段の授業の中で問題の文脈に沿って図などに表し、数量関係を捉えられるようにしていくことを意識的に取り入れていく。 ・除数が小数である場合の除法の意味について理解することが難しい。除数と商の大きさの関係を理解できるように、除数が整数、小数、分数の場面でも同じ決まりがいえることを、整理して指導していく。
B 図形	平均正答率は全国と比べて同等である。 ○円柱の展開図に関する設問では、正答率が全国平均より3.9ポイント上回った。 ○球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積を求める設問では、正答率が全国平均より5.4ポイント上回った。 ●直方体の見取り図の作図の設問では、正答率が8割以上と高かったが、全国平均より2.6ポイント下回った。 ●五角柱の底面と側面の関係から面の数を求め、理由を記述する設問では、正答率が全国平均より4.4ポイント下回った。	・立体図形の見取り図の作図では、対応する辺の長さや平行について理解して作図できるように、繰り返し取り組む必要がある。また、設問のように、作図の途中からかくなど、条件を設定した問題にも取り組んでいく。 ・角柱については、図形を構成する要素に着目し、「底面」と「側面」の数や形を捉えることが必要である。また、記述問題において理由が無回答の児童が10%近くいることから、条件を捉えて記述する仕方について、日頃の授業でも取り入れていく必要がある。
C 変化と関係	平均正答率は全国と比べて下回っている。 ●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係を考察する設問では、正答率は全国平均より5.2ポイント下回った。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する設問では、正答率は2割と低い。 ●速さを求める設問では、正答率は全国平均より7.4ポイント下回った。	・日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉える数量の関係について考えることが難しい。速さや単位量当たりの大きさの学習において、求めている数量の意味を理解できるようにするとともに、問題場面を理解し、異種の二つの量を図や式で表せるように指導していく。
D データの活用	平均正答率は全国と比べて同等である。 ○円グラフの読み取りの設問では、正答率は9割以上で全国平均より10.6ポイント上回った。 ●二次元表を読み取り、必要なデータを分類する設問では、正答率は全国平均より3.8ポイント下回った。 ●示された情報をもとに、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるか判断する設問では、正答率が4割と低く、全国平均より9.3ポイント下回った。	・二次元表を作成する問題では、示されたデータから観点を読み取り、整理することが難しい。授業では観点の示された二次元表で学習することが多いので、二次元表に表すための観点から考えさせる機会を設けることが必要である。また、落ちや重なりがないように分類整理することができるよう指導していく。 ・データの分析に関わる問題では、示された情報を読み取り、必要な数値を選択し判断する必要がある。問題場面の理解不足により、問われていることが分からない場合が考えられる。日常の授業において、文章題の問題場面を読み取る力を身に付けさせるよう、国語の学習などと連携を図りながら指導していく。